

Weekly Report

小諸浅間ロータリークラブ



ロータリー:
変化をもたらす

2017~2018 年度

国際ロータリーのテーマ

- ◆例会日/週火曜日 12:30~13:30 ◆例会場/小諸市鶴巻 音羽
- ◆事務局/〒384-0025 長野県小諸市相生町 1-2-12 エイワンビル 2 階
- ◆会 長 / 小池平一郎 ◆副 会 長 / 湯本 敏晴
- ◆幹 事 / 小林 秋生 ◆クラブ広報・情報委員長 / 依田 晋一



NO. 1383 平成29年9月26日

◆点鐘	小池平一郎 会長
◆SAA	橋詰 希望 委員
◆ソング	それでこそロータリー
◆ゲスト	花岡 隆 様(こもろ観光局 理事長) 朴敏貞 様 (米山奨学生)

【会長挨拶】 小池平一郎 会長

9月23日(土)秋分の日に行われた第30回記念小諸市民音楽祭、雨との予報でしたが、雨にも降られず、盛会裡に終了することができました。第1部のまち・こもろ作曲コンクールでは最優秀賞に南ヶ丘小学校3年生の吉田優那さんの「あかるい1日」という曲が選ばれ、夕方5時の市のチャイムに採用されることになりました。また、第2部では11の市内の団体が素晴らしい演奏をして下さり、楽しい一日でした。

2017年8月、琉球大学は長崎県対馬に設置したカメラでカワウソの姿がとらえられたと発表しました。日本にはかつてニホンカワウソが生息していたが、1979年に高知県で目撃されたのを最後に姿を消し、2012年には絶滅種に指定されています。日本各地の河川にはかつて、ニホンカワウソが数多く生息しており、ニホンカワウソは、イタチ科カワウソ亜科の動物であり、全長は1メートルほどにもなるそうで、明治以降の環境汚染や乱獲で数を減らし1979年の目撃が最後とされています。

最後の目撃から38年経った2017年、長崎県対馬に設置された自動カメラ(対馬ヤマネコ観察用らしい)になんとカウソの姿がとらえられ、ニホンカワウソが対馬で細々と生き残っていたのだらうかとニュースになりました。カワウソにはニホンカワウソとユーラシアカワウソがあり、両種は酷似しており、また両種がはっきりと別種といえるのかも不明の様であり、DNAレベルでニホンカワウソが解析されたのは2016年のことであり、これもニホンカワウソの剥製2体からサンプルを採り、東京農業大学の和久大介助教授らが、中国や韓国に生息するユーラシアカワウソのDNAと比較した結果だということです。和久助教授

によると、ニホンカワウソの祖先は大陸から日本列島に複数回流し、約130万年前にやって来たものが、四国で独自に進化し、その後約10万年位前にやって来たものが、本州などで広まった可能性があるということです。

今回のカワウソはどういう由来なのか、和久助教授は「韓国から対馬までの約50kmを自力で泳いだとは考えにくい、海流に乗るなど偶発的な要因が重なったと着いた可能性は否定できない」と語っています。

カワウソの由来を検討するためにまずは複数の個体が対馬にいるかどうか重要となり、すでに見つかっている糞に含まれるDNAの解析からは、雌雄2体のユーラシアカワウソと思われる個体がいる可能性が報告されているが、解析に用いられた糞が古く確証は得られないそうです。

映像を公開した琉球大・井沢雅子教授はこれからも調査・追跡を続けたいということだそうです。いずれにしても自然を大切にしつつ生活することが難しい現代ではあります。

【幹事報告】 小林 秋生 幹事

1. 例会变更

小諸RC	10月11日(水)	定刻受付なし
	10月18日(水)	定刻受付あり
	11月1日(水)	定刻受付あり
	11月22日(水)	定刻受付なし
佐久RC	10月19日(木)	定刻受付あり

【本日の配布物】

週報1382号、納涼夜間例会思い出写真集

◆出席報告 中河 邦忠 委員長

会員数22名	出席義務者22名	免除者0名
本日	出席 17名	
	事前 MU 0名	77. 27%
前々回(9/12)	MU 0名	76. 19%

◆ラッキー賞

NO. 6 渡辺 頼雄 君

次週のプログラム: 10月3日 「再入会一年を振り返って」 新井 粒太 会員

次々週のプログラム: 10月10日 定款による休会

小池平一郎君	花岡理事長、ようこそ。有難うございます。朴さんようこそ。また1ヶ月頑張ってください。	小林 秋生君	秋に入りまして、すでに秋深し..の感もありますが彼岸も過ぎてから残暑も帰って来ました。それにしても季節の移りも早いもの、頑張ってくださいと思います。
中河 邦忠君	花岡理事長、卓話有難うございます。	渡辺 頼雄君	花岡さんお話楽しみです。また、ラッキー賞まで当てて頂きました。
橋詰 希望君	10月4日朴敏貞さんを辰野RC訪問について、矢島栄一さんに連れてってもらいます。有難うございます。敏ちゃんお土産ありがとう。	前田 博志君	花岡さん、ありがとう。
黒澤 明男君			

【本日のプログラム】「一般社団法人 こもろ観光局設立までの経緯」こもろ観光局 理事長 花岡 隆様



小諸市観光地域づくりビジョンの策定に至った背景

社会環境

- ・少子化による全国的な人口減少により地域コミュニティや歴史、文化の存続継承が危ぶまれる
- ・人口減少、観光客減少により地域経済の存続が懸念される
- ・いわゆる「観光客」が減る中、観光地域づくりにより地域の元気、経済の好循環を生む「交流人口」「在日外国人観光客(インドアバウンド)」増への期待

期待効果

- ・今ある地域資源を活かして成り立つ、観光産業の優位性
(こもろには年間180万人以上の観光客が訪れている)
- ・安定的な雇用確保(四季折々の観光商品)
- ・住民の郷土愛、地域交流の維持、向上

小諸市観光地域づくりビジョンの策定手順

- ・平成25年～27年度の3年間をかけて、「小諸市観光地域づくりビジョン」検討会を実施
- ・毎年、20名ほどの民間団体代表者や市民有志の方々が参画
- ・平成28年2月16日に「小諸市観光地域づくりビジョン」を検討会から小諸市長へ答申

観光の概念が変わってきている

- ・従来の「観光」概念が変わってきている。(元来の意に戻ってきている)
昨今、観光地巡りや宿泊自体を楽しむ「物見遊山」だけでなく、その土地の歴史、文化、風習を学びたい、体験したい、住民と交流したいというニーズが強くなっている
- ・小諸にしかない商品、小諸に来なければ味わえないモノ
「小諸に来なければできない経験」を商品化し、買ってもらうことで、受け入れる地域住民も更に元気になり、継続的な地域交流が生まれる。市街地から外れた所に住むお年寄りも、心身ともに健康になるように。

小諸市の観光の実態と課題 (観光地域づくりビジョン検討会での議論結果)

- (1) 観光に関する小諸のビジョン・方向性が定まっていない
- (2) 各団体・組織の連携が希薄
- (3) 観光交流客に対する受入・おもてなし 意識が不十分
- (4) 観光施設などのインフラ整備、多様な関係者が参画した滞在プログラムの不備
- (5) 当ビジョン(観光地域づくり)を推進するかじ取り役がいらない

観光地域づくりコンセプト

情緒あふれる高原の城下町
～ようこそ スケッチ文化都市へ!～